

「白秋音楽まつり」での発表(シナリオ)



11月10日、柳川市民会館で白秋音楽まつりがありました。
本校からは、3・4年生60名が参加しました。
くわしくは、[ここをクリックしてください。](#)

○ ぼくたちは、そう合の時間に、白秋先生の3つの詩について調べました。

○ まず、さいしょに歌う「うさぎのでんぼう」には、こんなお話があります。

新潟の講演会でたくさんの子どもたちから温かく迎えてもらった白秋先生は、ステージで「うさぎのでんぼう」を歌いながらおどりだしました。そのとき、ポケットに入れていた仁丹(じんだん)の缶(かん)と一緒にカランカランと鳴るので、子どもたちが大喜びしました。

おちゃめな白秋先生のようにすを想像して、今日は、はじめに、佐々木すぐるさんの曲で、つぎに、夏目きょう子さんの曲で歌います。

♪ 兎のでんぼう ♪

○ この新潟の講演会がきっかけで作られたのが、次に歌う「砂山」です。新潟の子どもたちと仲よくなった白秋先生は、次に来るときも音楽会を開いてほしいとたのみます。すると、子どもたちは、「新潟の童謡を作ってください。」とおねがいのしたのです。白秋先生が、その約束をまもってできたのが「砂山」です。

○ 白秋先生の詩は、新潟をはじめ、全国各地に見られます。

今日は、中山晋平さんの曲を歌います。民謡(みんよう)調を出すのに、拍子木を使います。

♪ 砂山 ♪

○ 白秋先生はりんごが大好物でした。次に歌う「りんりん林檎の」は、8・5調のことばがつづき、リズムカルです。

この詩には、いろいろなお客さんを待つ気持ちがあふれていて、どことなく外国のけしきがうかんできます。きっと白秋先生がイギリスのマザーグースの詩を翻訳したこととつながりがあるのかもしれませんが。

作曲者、長村金二(おさむらきんじ)先生の親戚の方にお手紙を出し、楽譜と写真を送っていただきました。

では、お聞きください。

♪りんりん林檎の♪



「りんりん林檎の」の挿し絵(『赤い鳥』大正10年12月号)

【参考資料】

- 北原白秋「お話・日本の童話」『日本童謡ものがたり』河出書房新社 2003/6 P.240
- 原達郎「白秋の食卓」
- 佐藤通雅「北原白秋 大正期童謡とその展開」

【情報提供】

- 佐賀女子短期大学教授 横尾文子 様
- 童謡の会主宰 池田小百合 様
- 北原白秋記念館 様
- 長村邦彦 様